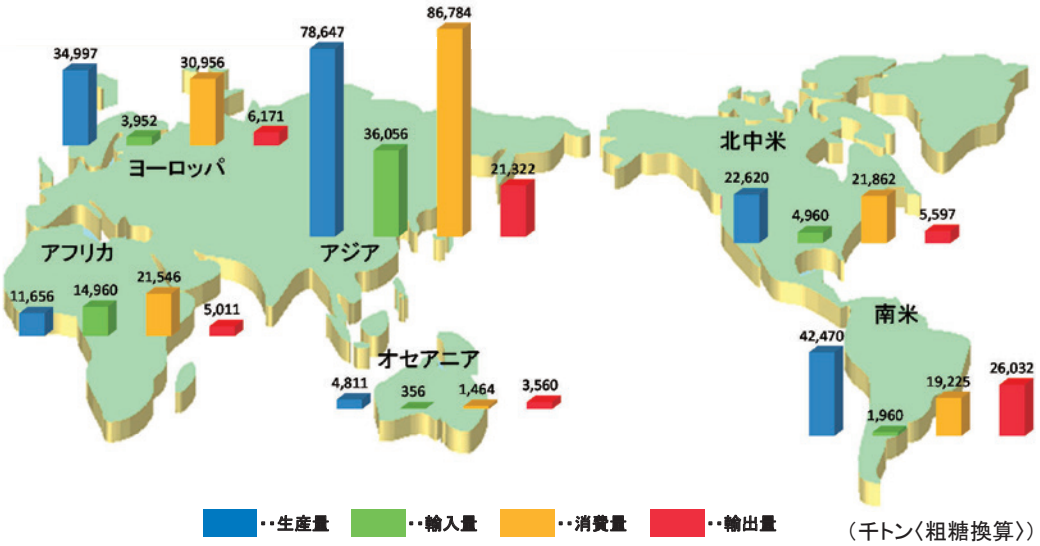
需給動向

砂糖の国際需給

調査情報部　竹谷　亮佑

1．世界の砂糖需給（2018年６月時点予測）

図１　絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2017/18年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか16カ国を含む。

表１　世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、％）

年 度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	54,982	160,315	56,023	164,755	56,244	50,321	30.5
2013/14	62,828	184,058	58,323	175,768	61,044	68,396	38.9
2014/15	68,396	183,717	59,707	177,548	62,081	72,191	40.7
2015/16	72,191	175,955	67,776	180,163	69,077	66,683	37.0
2016/17	66,683	180,577	67,755	179,536	69,746	65,732	36.6
2017/18（2018年６月予測）	65,732	195,201	62,244	178,807	67,693	76,676	42.9

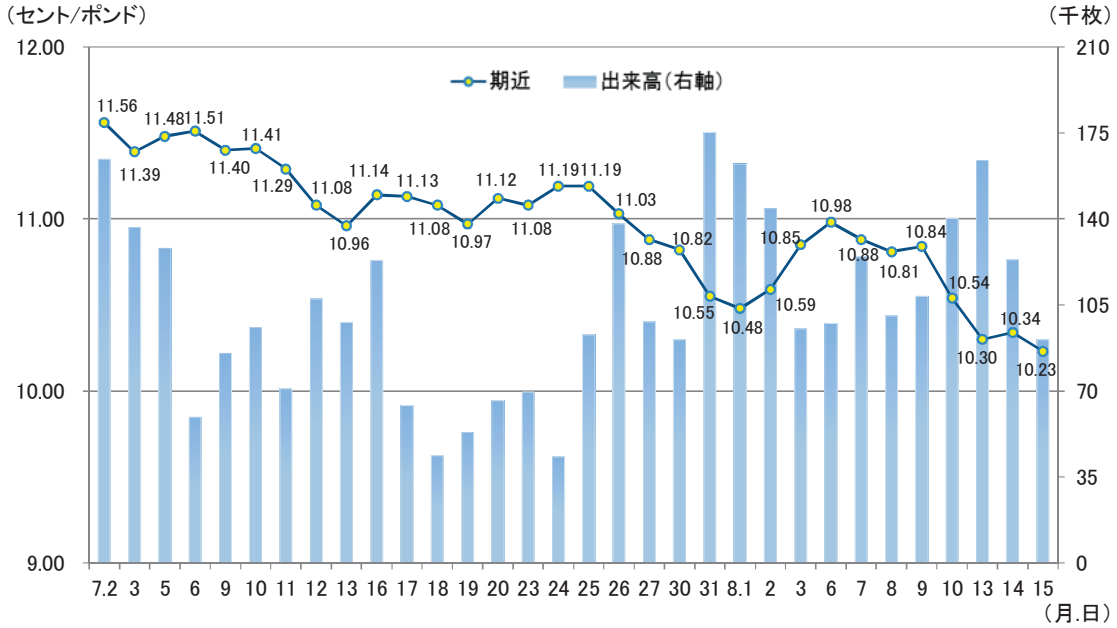
資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, June 2018」
注１：年度は国際砂糖年度（10月～翌９月）。
注２：2016/17年度および2017/18年度は予測値。
注３：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注４：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2018年10月号の掲載予定となります。直近の内容は2018年７月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」　：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001770.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001771.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖相場の動き（7/2 ～ 8/15）
～インドの増産、輸出増見通しを受け、下落続く～

図２　ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場（期近10月限（がつぎり））の2018年７月の推移を見ると、ブラジルでのエタノール価格の下落に加え、インドで砂糖の増産が続くとの見通しから、３日には１ポンド当たり11.39セントまで下落した。その後も、世界的な供給過剰感を受け下落が続き、13日には2018年４月以来の安値となる同10.96セントまで値を下げた。16日にはブラジルの干ばつが懸念され、同11.14セントまで反発し、その後しばらくもみ合いが続いた。25日にはブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）が、７月上半期のサトウキビ圧搾量を4500万トン（前年同期比5.6％減）と発表したものの、インドで来シーズンのサトウキビ買取価格が引き上げられるとの報道を受け、同国の砂糖の生産、輸出がともに増加すると見込まれたことから下落に転じ、31日には同10.55セントまで値を下げ、３年ぶりの10.5セント台を記録した。

８月に入り、１日には同10.48セントまで下落したが、７月後半に売られ過ぎた反動から、６日にかけて同10.98セントまで反発した。その後は、ブラジル中南部の主産地で降雨があり、干ばつ発生の懸念が和らいだことに加え、ブラジルの通貨レアルの下落が続いたことなどを受け、13日には2008年６月以来の水準となる同10.30セントまで値を下げた。14日にはブラジルの通貨レアルの下げ止まりなどを受け、同10.34セントまで反発したものの、15日には同10.23セントまで下落し、2018年の最安値を更新した。

（注）１ポンドは約453.6グラム、セントは１米ドルの100分の１。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2018年８月時点予測）

本稿中の為替レートは2018年７月末日TTS相場の値であり、１ブラジル・レアル＝30円（29.83円）、１インド・ルピー＝1.78円、１ユーロ＝131円（131.43円）である。

ブラジル

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：869万ha（前年度比1.3％増）
生 産 量：５億9500万トン（同7.2％減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3257万トン（同21.5％減）
輸出量：2116万トン（同31.7％減）

2018/19年度、乾燥気候とエタノール仕向けの増加を受け砂糖生産量は減少見通し

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2018年８月現在の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2018/19砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、869万ヘクタール（前年度比1.3％増）とわずかな増加が見込まれている（表２）。しかし、サトウキビ生産量は、北東部を中心に乾燥気候が長く続いている影響から、５億9500万トン（同7.2％減）とかなりの程度の減少が見込まれている。

砂糖生産量（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）は、国際価格が低迷を続ける中、エタノール需要の高まりに伴い、サトウキビのエタノール仕向け割合の増加が見込まれることなどを受け、3257万トン（同21.5％減）と大幅な減少が見込まれている。砂糖輸出量についても、生産量の減少を受け、2116万トン（同31.7％減）と大幅な減少が見込まれている。

中国政府と輸入関税の引き下げをめぐり協議

７月25日から27日にかけて開催された第10回BRICS(注)首脳会議で、ブラジルと中国の首脳は、両国間における農産品の貿易について、通算５度目の協議を行った。ブラジルのミシェル・テメル大統領は中国に対し、砂糖や鶏肉の輸入関税の引き下げや、大豆油・大豆かすの輸入枠の開放を要請した。現地報道によると、中国の習近平国家主席は、この提案に対し前向きに協議したいと回答したとしている。

（注）近年目覚ましい経済発展を遂げている、ブラジル（Brazil）、ロシア（Russia）、インド（India）、中国（China）、南アフリカ（South Africa）の５カ国の頭文字に由来。

北東部の州でサトウキビ関連産業に対する減税措置

ブラジル砂糖生産量の１割を占める北東部に位置するアラゴアス州政府は７月26日、製糖企業やエタノール製造企業に対し、法人税の減税措置を実施すると発表した。減税総額は70億ブラジル・レアル（2100億円）に及び、州GDPの８％に相当する。長年の課題とされてきた製糖産業の競争力強化や操業率の改善を図ろうとするものとみられる。

州政府は、減税措置により、歩留まりや製造能力の向上に伴う生産量の増加や雇用の創出がもたらされるとしており、地元のサトウキビ生産者団体も、技術革新や価格競争力の強化に伴う砂糖やエタノールの出荷拡大に期待を寄せている。

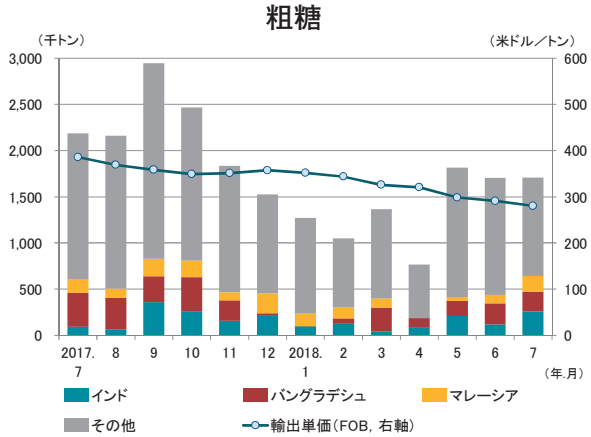
表２　ブラジルの砂糖需給の推移

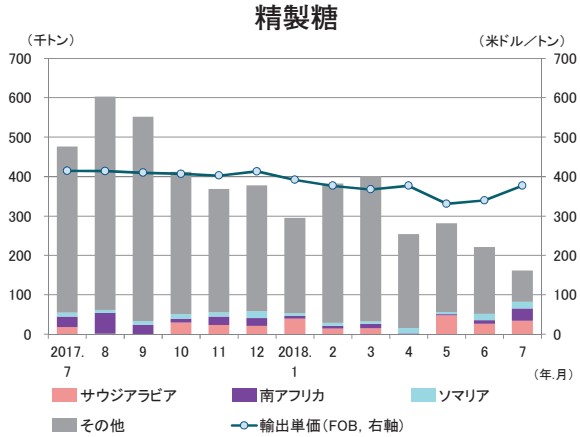
（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		8,784	8,188	8,474	8,570	8,570	1.1	8,685	1.3
サトウキビ生産量		632,127	666,824	651,841	640,860	640,860	▲ 1.7	595,000	▲ 7.2
砂糖	生産量	38,147	36,472	41,670	41,490	41,490	▲ 0.4	32,570	▲ 21.5
	輸入量	1	1	1	2	2	96.2	2	▲ 5.7
	消費量	12,625	12,057	11,502	11,295	11,295	▲ 1.8	11,408	1.0
	輸出量	24,871	26,023	30,117	30,788	30,978	2.9	21,157	▲ 31.7
	期末在庫量	2,346	739	791	200	9	▲ 98.8	16	73.1
	期末在庫率	18.6	6.1	6.9	1.8	0.08	6.8 ポイント減	0.14	0.06 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移





資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

インド

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：512万ha（前年度比6.1%増）
生 産 量：４億443万トン（同2.8%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：3558万トン（同2.5%増）
輸出量： 386万トン（同64.6%増）

2018/19年度、砂糖生産量は増加見通しも、在庫増が課題

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ生産については、収穫面積は512万ヘクタール（前年度比6.1％増）とかなりの程度の増加が見込まれている。生産量は、主要生産州で潤沢な降雨を得られる見通しであるものの、４億443万トン（同2.8%増）と、面積の増加に比して増加はわずかなものと見込まれている（表３）。

砂糖生産量は、サトウキビの増産を受け、3558万トン（同2.5%増）とわずかな増加が見込まれている。砂糖輸出量は、386万トン（同64.6%増）と、積み上がった在庫を輸出増によって処理する政府の方針もあり（後述）、大幅な増加が見込まれている。

供給過剰の砂糖、輸出先を模索

インド政府は、生産増加によって緩慢になった国内需給に対し、輸出増によって需給の引き締めを図ろうとしている。

現地報道によると、インド政府は現在、バングラデシュ、マレーシア、インドネシア、中国の４カ国に対し、同国産砂糖のさらなる市場開放を求めたとされる。このうち、バングラデシュは、距離的な近接性を生かし、10 ～ 12月にかけて220万トンの砂糖を輸入する意向を伝えており、マレーシアも同様に、同国からの輸入を前向きに検討しているとされる。

一方、世界でも有数の砂糖輸入国であるインドネシアとの交渉については、インドネシア側が、インドが一方的に輸入関税を引き上げたパーム油関連製品の関税引き下げが先であるとして譲らず、難航している。中国についても、潜在的に150万～ 200万トンの輸入需要があるものの、輸入枠の数量上限が厳しく、市場開拓は容易ではないとしている。

インド産の砂糖は、政府が定めるサトウキビ買取価格の水準が高いこともあり、生産コストが高く、国際市場における価格競争力が低いとされている。現地報道によると、2017/18年度の期末在庫が1000万トン超に積み上がる中、2018/19年度は、生産量も3500万トンに上ると見込まれている。このため、国内消費が前年度並みの水準で推移した場合、前年度を大幅に上回る期末在庫が生じることから、需給の引き締めが急務となっている。

政府、サトウキビ圧搾汁からのエタノール生産を認可へ

インド政府は７月27日、製糖業者に対し、糖蜜やバガス（サトウキビの搾りかす）といった副産物からの製造しか認めていなかったエタノールについて、サトウキビの圧搾汁からの直接生産を認めると発表した。また、政府は、エタノールの最低買取価格の引き上げを併せて発表し、2018年12月以降、副産物由来のエタノールについては１リットル当たり43.70インド・ルピー（78円）、圧搾汁から生産されたエタノールについては同47.49インド・ルピー（85円）となる。

インド政府は、ガソリンへのエタノール混合率10％を目指していることもあり、同国におけるエタノール生産は、近年急速に増加しているものの、それでも需要に供給が追い付かず、混合率は４％程度にとどまっているとされる。

現地報道によると、今回の制度変更によって、サトウキビからのエタノール生産の拡大が進めば、結果的に砂糖需給の引き締めも期待できるとしている。

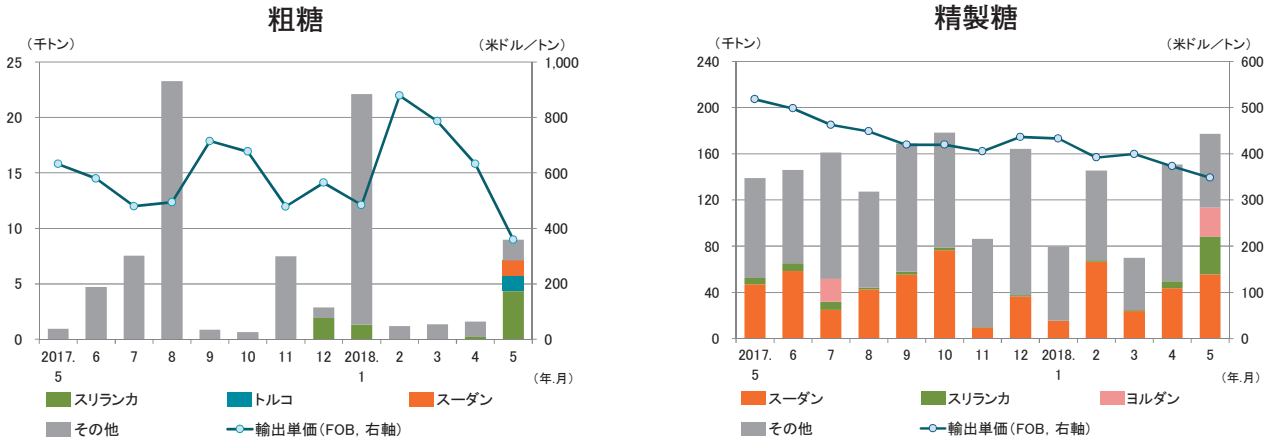
表３　インドの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		4,942	4,806	4,327	4,827	4,827	11.6	5,120	6.1
サトウキビ生産量		378,969	356,871	306,070	393,320	393,320	28.5	404,434	2.8
砂糖	生産量	30,529	27,091	21,848	34,828	34,720	58.9	35,583	2.5
	輸入量	1,509	2,146	2,458	2,000	2,000	▲ 18.6	2,028	1.4
	消費量	25,920	26,784	26,568	27,540	27,540	3.7	28,083	2.0
	輸出量	2,468	3,955	2,233	2,594	2,344	5.0	3,859	64.6
	期末在庫量	9,871	8,370	3,874	10,569	10,711	176.4	16,380	52.9
	期末在庫率	38.1	31.2	14.6	38.4	38.9	24.3 ポイント増	58.3	19.4 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

中　国

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：125万ha（前年度比1.1％増）
生 産 量：7775万トン（同1.3％増）
【てん菜】
収穫面積：22万ha（同20.5％増）
生 産 量：1118万トン（同16.6％増）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】
生産量：1142万トン（同2.4％増）
輸入量：　645万トン（同12.1％増）

2018/19年度、砂糖生産量は増加見通しも、国内需要を賄うには至らず

サトウキビについては、2018/19砂糖年度（10月～翌９月）の収穫面積は125万ヘクタール（前年度比1.1％増）、生産量は7775万トン（同1.3％増）と、ともにわずかな増加が見込まれている（表４）。同年度のてん菜の収穫面積は22万ヘクタール（同20.5％増）、生産量は1118万トン（同16.6％増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビ、てん菜の生産量がともに増加すると見込まれていることを受け、1142万トン（同2.4％増）とわずかな増加が見込まれているが、依然として国内消費量を大きく下回る水準となっている。こうしたことから、砂糖輸入量は645万トン（同12.1％増）とかなり大きな増加が見込まれている。

肥満の原因は、糖質ではなく脂質との調査結果を発表

新華社通信の報道によると、中国の研究機関は、肥満には、糖質ではなく脂質の摂取が影響しているという実験結果を発表した。

この実験は、マウスに異なる29種類の食事（脂質、糖質、タンパク質のいずれかのみ）を、３カ月間（人間の寿命に換算すると9年程度）にわたって一定の量を給与し続けるというものである。実験の結果、脂質を給与されたマウスだけが、エネルギー摂取量や体重が増加した一方、糖質またはタンパク質を給与されたマウスは、給与量に関わらず体重の増加が確認されなかった。

肥満や体重増加の要因については、1980年代以降さまざまな論争が巻き起こってきたが、この実験結果によると、これまでしばしば主因としてやり玉

に挙げられてきた糖質については、その疑惑が晴れたとされる。

今回の実験を実施した研究者らによると、この実験はあくまでもマウスによるもので、同じような臨床実験を長期にわたって実施することは現実的ではないものの、この実験をきっかけに食生活についての理解を深めてほしいとしている。

表４　中国の砂糖需給の推移

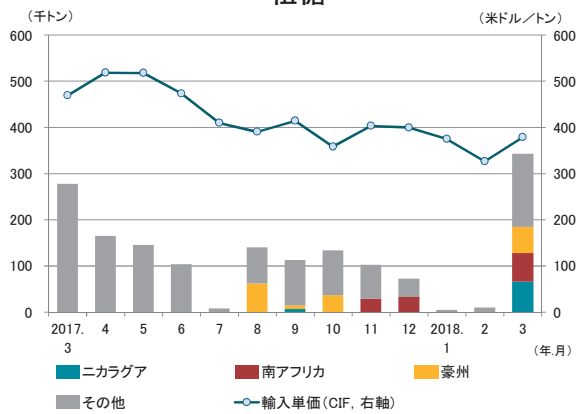
（単位：千ha、千トン、％）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
サトウキビ収穫面積		1,457	1,311	1,178	1,231	1,231	4.5	1,245	1.1
サトウキビ生産量		85,037	74,950	73,690	76,780	76,780	4.2	77,749	1.3
てん菜収穫面積		130	136	168	186	186	10.7	224	20.5
てん菜生産量		6,416	6,880	8,820	9,590	9,590	8.7	11,182	16.6
砂糖	生産量	11,412	9,405	10,041	11,147	11,147	11.0	11,418	2.4
	輸入量	6,759	7,910	5,877	5,443	5,753	▲ 2.1	6,450	12.1
	消費量	16,680	16,847	16,847	16,931	16,931	0.5	17,016	0.5
	輸出量	71	181	146	133	133	▲ 8.9	154	15.8
	期末在庫量	11,638	11,926	10,851	10,326	10,686	▲ 1.5	11,385	6.5
	期末在庫率	69.8	70.8	64.4	61.0	63.1	1.3 ポイント減	66.9	3.8 ポイント増

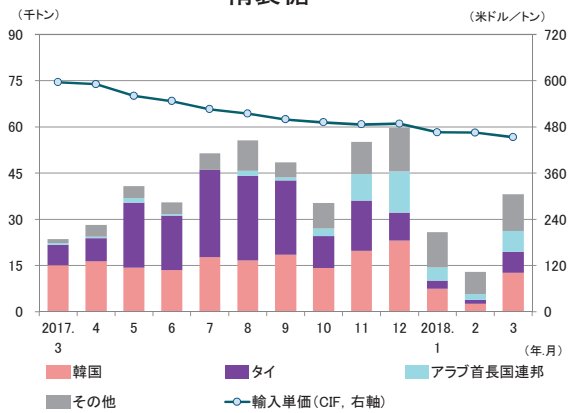
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

E　U

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】
収穫面積：172万ha（前年度比0.6%減）
生 産 量：１億2734万トン（同5.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】
生産量：2002万トン（同7.1%減）
輸出量： 326万トン（同9.1%減）

2018/19年度、乾燥気候と高温を受け、砂糖生産量は減少見通し

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のてん菜の収穫面積は、172万ヘクタール（前年度比0.6%減）とわずかな減少が見込まれている。生産量は、乾燥気候と高温による単収減の影響から、１億2734万トン（同5.4%減）とやや減少が見込まれている（表５）。

てん菜生産量の減少を受け、砂糖生産量は2002万トン（同7.1％減）、輸出量は326万トン（同9.1%減）と、生産割当廃止によって大幅な増加を記録した2017/18年度と比べると、ともにかなりの程度の減少が見込まれている。今夏、熱波による記録的な高温と乾燥が続いており、今後もこの状況が続くようであれば、生産見通しがさらに下振れする可能性もあるとしている。なお、2017/18年度は、生産割当廃止に伴い、砂糖生産量が飛躍的に増加したことを受け、砂糖の輸入量は半減した。砂糖生産量の減少が見込まれている2018/19年度についても、前年度の期末在庫が潤沢なことを受け、輸入量は減少傾向で推移すると見込まれている。このため、EUに砂糖を多く輸出してきたアフリカや大洋州島しょ部の各国は、苦境に立たされている。

現地報道によると、これらの国は、国際価格が下落を続ける中、生産コストが高いため価格競争力が低いこともあり、欧州以外の市場の開拓も難航している。このため、アフリカのモーリシャスでは、サトウキビをラムの醸造に用いるなど代替需要の創出を試みている。また、同じくアフリカのエスワティニ（旧国名：スワジランド）では、製糖工場の統廃合を進め、生産効率の向上を図るなど、各国は対応を迫られている。

砂糖の工場出荷価格、低迷続く

欧州委員会によると、５月の工場出荷価格は１トン当たり368ユーロ（4万8208円）と、2017年10月以降、８カ月連続で前年同月を下回った（図３）。現地報道によると、生産過剰となっているEUの市況を反映し、スポット価格は一時的に同320ユーロ（４万1920円）程度まで下落しており、製糖業者の中には、調整保管の実施を欧州委員会に求める声もある。なお、この月別工場出荷価格は毎月更新されているが、今回の更新から、三つの地域に分けられ、それぞれの地域別価格についても公表されるようになった（図４）。地域別価格については、2017年10月分までさかのぼって取得することができる。

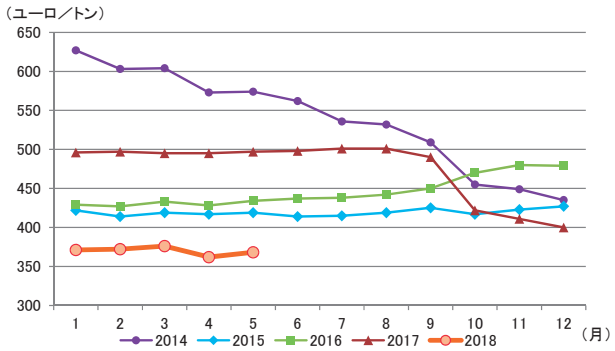
表５　EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,602	1,364	1,463	1,729	1,729	18.2	1,719	▲ 0.6
てん菜生産量		129,016	94,855	106,865	134,588	134,588	25.9	127,335	▲ 5.4
砂糖	生産量	19,362	14,937	17,554	21,533	21,536	22.7	20,017	▲ 7.1
	輸入量	3,378	3,651	3,115	1,631	1,522	▲ 51.1	1,413	▲ 7.1
	消費量	19,620	19,481	18,828	18,320	18,332	▲ 2.6	18,169	▲ 0.9
	輸出量	1,558	1,501	1,510	3,587	3,587	137.6	3,261	▲ 9.1
	期末在庫量	4,307	1,913	2,244	3,513	3,383	50.7	3,383	0.0
	期末在庫率	22.0	9.8	11.9	19.2	18.5	6.6 ポイント増	18.6	0.1 ポイント増

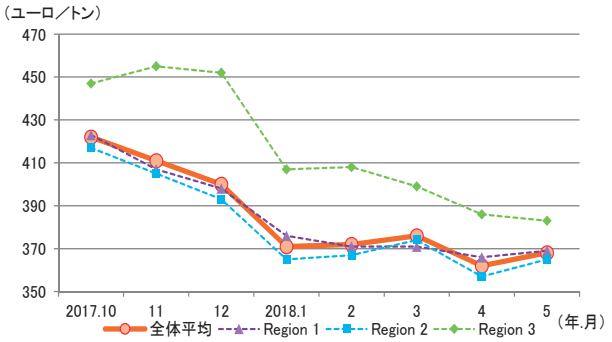
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

図３　砂糖の月別工場出荷価格の推移



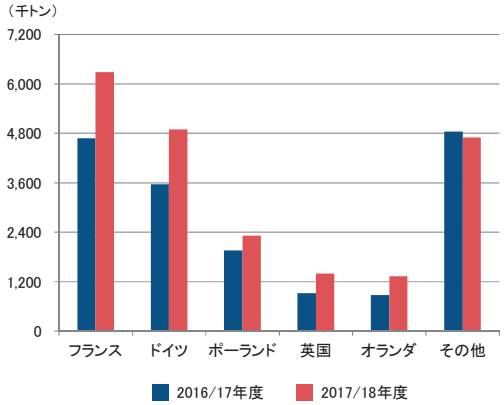
資料：欧州委員会

図４　砂糖の月別工場出荷価格の推移（地域別）

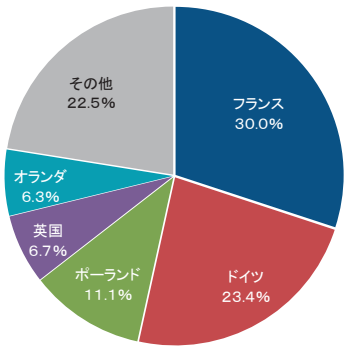


資料：欧州委員会
注：地域の区分は以下の通り。
Region1：オーストリア、チェコ、デンマーク、フィンランド、ハンガリー、リトアニア、ポーランド、スウェーデン、スロバキア
Region2：ベルギー、ドイツ、フランス、英国、オランダ
Region3：ブルガリア、スペイン、ギリシャ、クロアチア、イタリア、ポルトガル、ルーマニア

（参考）EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合（2018年４月時点）



資料：欧州委員会
注１：精製糖換算。
注２：2016/17年度は推定値、2017/18年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2017/18年度。

4. 日本の主要輸入先国の動向（2018年8月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14－110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14－200〉の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2017年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が69.5%（前年比17.3ポイント増）、タイが25.0%（同22.7ポイント減）と、この２カ国で９割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として３カ月に１回の報告とし、今回はフィリピンを報告する。本稿中の為替レートは2018年７月末日TTS相場の値であり、1豪ドル＝84円（84.21円）、１タイ・バーツ＝3.40円である。

豪　州

2018/19年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：39万ha（前年度比2.3%増）
生 産 量：3397万トン（同1.4%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：483万トン（同7.9%増）
輸出量：378万トン（同5.4%増）

2018/19年度、砂糖生産量は増加見通し

2018/19砂糖年度（４月～翌３月）のサトウキビ収穫面積は、39万ヘクタール（前年度比2.3%増）とわずかな増加が見込まれている。生産量も、3397万トン（同1.4%増）と、サイクロンの上陸や干ばつの発生といった悪い気候条件が重なった2017/18年度と比べると、わずかな増加が見込まれている（表６）。

これに伴い、砂糖生産量は483万トン（同7.9%増）とかなり程度の増加が見込まれている。輸出量は378万トン（同5.4%増）とやや増加が見込まれているが、国内消費量については、一部の消費者の間で、健康意識の高まりなどから砂糖の消費を敬遠する動きがあり、108万トン（同4.0%減）と前年度をやや下回ると見込まれている。

北部の製糖工場、生産者団体へ売り戻す方向で調整

現地報道によると、製糖量で豪州第２位のMackay Sugar社は、ケアンズ北部のモスマンに位置する製糖工場について、収益性の低下を受け、地元の生産者団体に売却する方向で調整している。売却金額やスケジュールについては、具体的に明らかにされていない。

同工場は、2012年に地元の生産者団体から2500万豪ドル（21億円）で買収したものの、わずか６年余りで再び元の運営主体に売り戻されることとなる。買収当初から、買収よりも既存工場への設備投資を優先すべきとの声が、株主の間から上がっており、今回の売り戻しについて批判的な意見も出ている。同社は、今回の売り戻しについて、製糖事業自体の赤字に伴う売却ではないことを強調している。

一方、地元の生産者団体は、生産者や地域経済にとって生命線ともいえる製糖工場を、自らの手に取り戻せたことを喜んでおり、隣接するテーブルランド地方と協力して、同工場を運営していきたいとしている。

表６　豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		378	382	368	377	377	2.4	386	2.3
サトウキビ生産量		32,361	34,941	36,506	33,495	33,495	▲ 8.2	33,965	1.4
砂糖	生産量	4,547	4,889	4,816	4,481	4,481	▲ 7.0	4,834	7.9
	輸入量	164	164	67	30	30	▲ 55.5	30	0.0
	消費量	1,187	1,196	1,172	1,125	1,125	▲ 4.0	1,080	▲ 4.0
	輸出量	3,412	4,384	4,004	3,585	3,585	▲ 10.5	3,780	5.4
	期末在庫量	1,795	1,267	974	775	775	▲ 20.5	779	0.5
	期末在庫率	151.2	105.9	83.1	68.9	68.9	14.2 ポイント減	72.1	3.2 ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タ　イ

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：171万ha（前年度同）
生　産　量：１億3151万トン（前年度比2.5%減）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：1514万トン（同2.9%減）
輸出量：1334万トン（同26.0%増）

2018/19年度、生産量は微減の見通し

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は171万ヘクタール（前年度同）と横ばいが見込まれている。生産量は１億3151万トン（前年度比2.5%減）と、潤沢な降雨が得られたことで記録的な単収増となった前年度の生産量と比べると、わずかな減少が見込まれているものの、直近５年では前年度に次ぐ生産量となり、高い水準での推移が続くと見込まれている（表７）。

砂糖生産量は、サトウキビ生産量の減少を受け、1514万トン（同2.9%減）とわずかな減少が見込まれているが、国内消費を上回る生産が続いていることから、輸出量は、1334万トン（同26.0%増）と２年度連続の大幅な増加が見込まれている。この結果、2017/18年度に大幅に増加した期末在庫については、2018/19年度は大幅に減少し、例年並みの水準に戻ると見込まれている。

現地報道によると、タイ製糖協会も同様に、2018/19年度の砂糖生産量は、前年度をわずかに下回る見通しであるとしている。また、大幅に増加した砂糖在庫を解消するため、2018年の下半期には、600万トン程度の砂糖を輸出したいとしている。

製糖企業は、国際価格低迷を受け減益

年間約118万トンの砂糖を生産し、国内シェア第４位を占めるKaset Thai社は、2018年第二四半期（４～６月）の業績を発表した。これによると、グループ全体の売上高は75億タイ・バーツ（255億円）と前年同期並みとなったが、本業の製糖部門の売上減が響き、２億2320万タイ・バーツ（７億5888万円）の純損失を計上した。

報告によると、製糖部門の売り上げは前年同期比4.9%減、エタノール部門についても価格低迷を受け同3.2%減となったものの、バイオエネルギーを活用した売電事業は好調で、売上額は同64.1%増となった。

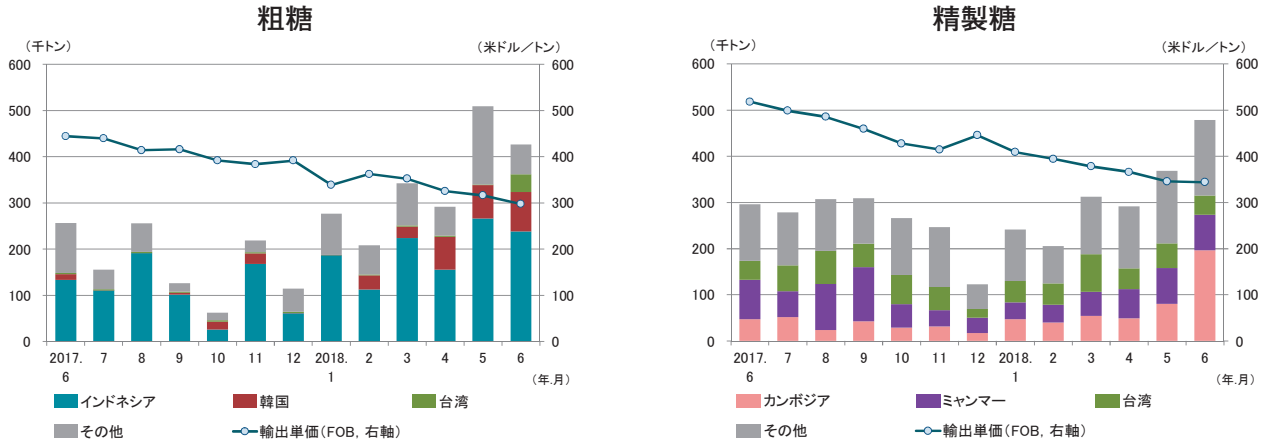
表７　タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（７月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		1,535	1,644	1,578	1,708	1,708	8.2	1,708	0.0
サトウキビ生産量		105,959	94,047	92,951	134,929	134,929	45.2	131,513	▲ 2.5
砂糖	生産量	12,036	10,402	10,657	15,586	15,586	46.3	15,135	▲ 2.9
	輸入量	0	1	0	1	1	558.4	1	0.0
	消費量	3,262	3,272	3,283	3,672	3,505	6.7	3,294	▲ 6.0
	輸出量	8,186	7,932	7,393	10,419	10,586	43.2	13,337	26.0
	期末在庫量	4,771	3,970	3,951	5,447	5,447	37.9	3,952	▲ 27.4
	期末在庫率	146.3	121.3	120.3	148.3	155.4	35.1 ポイント増	120.0	35.4 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）　タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位３カ国を表示。

フィリピン

2018/19年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】
収穫面積：42万ha（前年度同）
生 産 量：2504万トン（前年度比6.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】
生産量：235万トン（同13.0%増）
輸出量：　14万トン（同36.0%減）

2018/19年度、砂糖生産量は回復も、引き続き輸入増の見通し

2018/19砂糖年度（10月～翌９月）のサトウキビ収穫面積は42万ヘクタール（前年度同）と横ばいが見込まれている一方、生産量は、天候不順であった前年度（後述）と対照的に、平年を上回る降雨が得られる見通しであることなどから、2504万トン（前年度比6.1%増）とかなりの程度増加し、回復が見込まれている（表８）。

砂糖生産量については、サトウキビ生産の増加を受け、235万トン（同13.0%増）とかなり大きく増加するものの、国内消費量を賄うには至らず、砂糖輸入量も47万トン（同2.9%増）と２年度連続の増加が見込まれている。このため、砂糖輸出量は

14万トン（同36.0%減）と抑制され、２年度連続での大幅な減少が見込まれている。

天候不順に伴い、生産見通しを下方修正

砂糖統制委員会（SRA）は、2017/18年度の砂糖生産量について、前年度（250万トン）を16%下回る210万トン程度となると発表した。年度当初の段階では238万トンとの生産見通しを示していたが、天候不順に伴い、下方修正が繰り返されてきた。

国内の砂糖生産の減少に伴い、砂糖需給がひっ迫したことから、SRAは今年度、合計20万トンの砂糖輸入の実施を決定している。需要先別の内訳を見ると、半分の10万トンが清涼飲料業界に、残りの10万トンは、食品産業、直接消費にともに５万トンずつ仕向けられる見通しとなっている。

表８　フィリピンの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度		2014/15	2015/16	2016/17	2017/18（５月予測）	2017/18（８月予測）	前年度比（増減率）	2018/19（８月予測）	前年度比（増減率）
収穫面積		417	413	421	424	424	0.6	424	0.0
サトウキビ生産量		23,384	23,254	28,005	25,472	23,612	▲ 15.7	25,042	6.1
砂糖	生産量	2,324	2,239	2,501	2,266	2,081	▲ 16.8	2,350	13.0
	輸入量	102	441	123	252	454	268.3	467	2.9
	消費量	2,427	2,347	2,353	2,400	2,542	8.1	2,675	5.2
	輸出量	47	168	283	222	222	▲ 21.6	142	▲ 36.0
	期末在庫量	361	526	514	414	284	▲ 44.7	284	0.0
	期末在庫率	14.9	22.4	21.8	17.3	11.2	10.6 ポイント減	10.6	0.6 ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, August 2018」
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。